



『便潜血検査について』

中央検査科 望月 恵子

便潜血検査とはどのような検査なのかご存知ですか？

大腸がん検診の簡易検査で、職場の健康診断や人間ドックなどで実施されることの多い検査で、便の中に血液が混じっていないかを検査します。

便潜血陽性とは便の中に血液が混じっていることを意味し、口から肛門までのどこからか出血があることを意味します。以前は食べ物（緑黄色野菜、肉など）や薬（鉄剤など）の服用で便潜血検査が陽性となってしまうことがありましたが、現在はヒトの血液に含まれるヘモグロビンという成分のみに反応するため、より正確に便潜血の有無をチェックできるようになりました。当院で行っている便潜血検査は、主に大腸以後の消化管で出血しているのかどうかをみることを目的としています。見落としを少なくするため通常2日法（2日分の便潜血検査）で検査されます。

便潜血検査が陽性となる腸の病気には痔やポリープ、腸炎、大腸がんなどがあります。

便潜血検査の【陽性】＝【がん】とは限りません。肛門周囲には毛細血管が多く、便に微量の血液混入や痔からの出血で陽性となったり、また女性の場合は月経血が混じっていると陽性になることがあります。

しかし便潜血陽性の原因を大腸精密検査を行わずに、素人判断で決め付けてしまうのは非常に危険なので、便潜血検査の結果が陽性のときは大腸精密検査（内視鏡検査など）を受けて確認をしましょう。

便潜血検査が陰性とは、その時の便に血液が混じっていなかったことを意味しますが、大腸の病気であっても出血がない場合や便を採取した部位に血液がついているとは限らないため、大腸の病気やがんがないという証拠にはなりません。

毎年検診を受けると見落としが少なくなるといわれています。早期発見、早期治療のため毎年便潜血検査を受けることをお勧めします。

最後に、便潜血検査を受ける際に専用の容器に便を採取していただくのですが、その時の注意点についてご説明します。



★便を採取するときの注意点

1. 採便容器内に入っている液は捨てない。
* 容器内の液が無いと検査ができません。
2. 採取する便の量は、採便棒または採便ブラシの溝に便が埋まる程度に採取する。
また採便棒または採便ブラシは一度容器に戻したら取り出さない。
* 採便棒または採便ブラシを何度も出し入れすると便量が多くなり、正しく検査ができないことがあります。
3. 便の表面を数回こするようにして採取する。
4. 便を採取した容器は提出するまで冷暗所で保管し、日のあたる場所や車の中など温度が上昇しやすい場所に置きっ放しにしない。
* 暑い場所や室温（20℃ぐらい）などに保管した場合正しい結果が出ないことがある。
5. 便を採取した容器はなるべく早く提出する。
* 冷暗所で10日ほど保管可能です。
6. 便を採取した容器に氏名・採取した日付を記入する。
* 名前の確認や採取してからの経過日数が検査に必要なため。

これらの事を注意していただくことはより、正確な検査結果を出すことにつながります。

検査を受けられるご本人、ご家族の協力が欠かせませんのでぜひご理解、ご協力をお願い致します。